

氏名	高木 大輔
学位の種類	博士（作業療法学）
学位記番号	健博 第117号
学位授与の日付	平成28年3月25日
課程・論文の別	学位規則第4条第2項該当
学位論文題名	作業療法プログラムの違いが高齢者の健康統制感と効果指標との関係に与える影響 ～ランダム化比較試験～
論文審査委員	主査 教授 石井 良和 委員 教授 小林 隆司 委員 准教授 井上 薫

【論文の内容の要旨】

【目的】介護予防プログラムの実施に当たって、作業療法士は参加者がどのような動機付けや健康感など、いわゆる健康に対する信念を持っているのかを知り、その上でプログラム内容を検討することが重要である。これまで筆者らは、健康に関する信念である健康統制感に着目し、作業療法士が提供するプログラム内容や効果との関係について検討してきた。その結果、介護予防運動プログラムを行った場合は、健康統制感が外的統制（健康は自分以外の要因でコントロールされると信じる傾向）の対象者で健康関連QOLが向上したことを報告した。また、内的統制（健康は自分でコントロールされると信じる傾向）の対象者では、介護予防運動プログラムよりも、人間作業モデルに基づく健康増進プログラム（以下、MOHOプログラム）を行った群で健康関連QOLが高かったことも報告した。一方で、多次元概念である健康統制感を内的と外的の2次元でしか検討していないことや、対象者の割り付けが無作為でなかったなどの課題も明らかとなった。そこで、本研究では、対象者をランダムに割り付けた上で、健康な高齢者に対する作業療法プログラムの違いが健康統制感と効果指標との関係にどのような影響を与えるのかを検討することを目的とした。

【方法】対象は、東京都と沖縄県で実施した65歳大学に参加した65歳以上の高齢者である。65歳大学は高齢者の健康増進や介護予防に向けた新たな作業療法プログラムを開発するための研究事業であり、MOHOプログラムと手工芸の作製プログラム（以下、手芸プログラム）の効果を検討するものである。対象者は各地区を層として、MOHOプログラムを行う群と手芸プログラムを行う群にランダムに割り付けた。MOHOプログラムの内容は、MOHOの基本的構成要素である10の概念に関する講義と、対象者が現在までの健康な生活を支える要素や、将来への備えを理解できるような演習を行った。また、対象者が自ら健康に関す

る作業の計画や実施も行った。プログラムはMOHOに精通した大学の教員の作業療法士が行った。手芸プログラムはアンデルセン手芸、折り紙手芸などの7種目を実施した。プログラムを通して作業そのものの楽しみや学習、作業を通しての交流などの支援も行った。プログラムはMOHOプログラムと同じ担当者が行った。両プログラムは1回120分、全15回実施した。測定は、基本属性のほか、日本版主観的健康統制感尺度（以下JHLC）を実施し、下位尺度（自分、家族、専門職、偶然、超自然）ごとに点数を算出した。また、効果指標として老人用うつスケール短縮版（以下、GDS）、生活満足度指標Z（以下、LSIZ）、SF-36を実施した。そしてプログラム初回時と最終時における測定値の差や、健康統制感と効果指標との相関分析を基に検討した。統計学的検定にはノンパラメトリック検定を用い、有意水準は5%未満とした。

【結果】募集に応じた対象者は61名で、MOHOプログラムに31名、手芸プログラムに30名が割り付けられた。最終的な解析対象者は34名であり、MOHOプログラムが18名、手芸プログラムが16名であった。JHLC下位尺度と効果指標との関係を見ると、MOHOプログラムを行った結果、JHLCの自分とGDS、LSIZ、SF-36の全体的健康感、心の健康で中程度の相関が見られたほか、JHLCの家族や専門職と相関する効果指標項目がいくつか見られた。一方、手芸プログラムを行った結果では、JHLCの下位尺度と効果的な相関関係にある効果指標項目が見られなかった。

【考察】MOHOプログラムは作業における自身の身体的側面や精神的側面、環境的な影響についての考え方を学ぶだけではなく、自分たちのより良い生活に向けた活動を企画し実行するという特徴がある。このようにMOHOプログラムは、主体的な活動を通して対象者の多様なニーズに応えるプログラムであったことが、JHLCの自分のみならず家族や専門職と効果指標を結びつける効果があったものと考えられる。一方、手芸プログラムは、作品作りが健康的な生活にどのように活かされるのかという意識の変容につながりにくいプログラムであることが予想される。このことから、JHLCと効果指標との関係に強い影響を与えないプログラムであることが考えられる。以上より、介護予防プログラムを作成・実施する際に健康統制感を用いる場合は、プログラム内容によって健康統制感と効果指標との関係に違いが生じる可能性を考慮しながら、さまざまな信念を持つ対象者に適用できるようなバランスの取れたプログラム開発の検討材料として利用できるものと考えられる。

【結論】本研究では、2つの作業療法プログラムが高齢者の健康統制感と効果指標との関係にどのような影響を与えるのかを検討した。その結果、MOHOプログラムは自分、家族、専門職の健康統制感と効果指標との間にポジティブな影響が認められ、手芸プログラムではそのような影響は認められなかった。健康統制感を用いた対象者の信念を評価することは、より効果的な介護予防プログラムの開発に寄与できる可能性がある。